

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立鳶巣幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・園の教育目標をもとに年度当初に学級経営案を作成し、毎学期毎に振り返り、反省評価を行い、次学期の経営に活かすように努めた ・今年度は正規の職員配置となり、各学級とも幼児の成長や発達に即した指導計画を立てゆとりをもって保育に取り組むことができた。	4	4	◆今後も教育目標、教育課程から各学級でたてた目標に向かって、具体的な方策をあげ取組んでいく。学期毎、年度末に検討見直しを行い、目標達成のために短期の目標を設定したり、個人の課題解決への取組みをしたりし、方策を明確化する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・園内研修「語ろう会」を通して幼児を多面的に捉え、理解するように努めた。日々の記録や研修会での話し合いをもとに幼児の発達や課題を明確化し、一人一人と丁寧に向き合い保育を行った。 ・「語ろう会」を定期的に実践することで、職員間で共通理解を図りながら幼児理解を深めていくことができた。	4	4	◆一人一人の成長、発達に合った指導、支援ができるように全職員で多面的に幼児を理解し、課題や対応の仕方について話合える場や時間を定期的に設け、取組む。 ◆本園の強みを活かし一人一人に丁寧にに関わり、幼児の成長発達の姿を保護者に具体的に伝え、保育や指導への理解を得る。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・補助教諭、幼稚園ヘルパーの配置があり、困り感を抱える幼児への対応を連携を図りながらきめ細やかに行うことができた。 ・巡回訪問の支援方法のアドバイス等を職員間で共有し、全職員で一貫した対応ができるように取組んできた。また、保護者との情報交換も積極的に行い、支援に活かすように努めた。	4	4	◆支援シートをもとに全職員で幼児の実態や課題、困り感について話し合い、共通理解を図るための場、時間を設ける。 ◆関係機関の指導を受け、幼児に適した支援方法で丁寧な対応を行う。困り感のある幼児、不安を抱えた保護者には、関係機関に円滑に繋げていけるように信頼関係を築いていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・同和教育啓発指導員を講師に招き、事前に職員研修を行ったり、保護者と一緒に参加型の研修をしたりするなど、園全体で人権感覚を磨いていけるように努めた。 ・幼児の発達に合わせた職員の支援や指導方法で、幼児の自己肯定感や人権意識を高めることができた。	4	4	◆講演会や参加型の研修会を継続して行う。コロナ禍で開催できなかったが、保護者と地域の方が一緒に研修できる場を設け園と地域が一体となって人権意識を高めていけるようにする。 ◆職員は人権意識を磨き、幼児の自己肯定感を高めていけるような支援、指導ができるように、積極的に研修会等に参加する。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・コロナ禍3年目になったが、安心安全に実施できるように努めた。今までの経験を活かし、全職員で検討見直しを行い、幼児の発達を促せるような見通しをもった保育、行事の実践を行った。 ・アンケート結果や行事後の保護者の感想は肯定的な意見が多く、園の取組みを理解し、子どもの成長を喜ぶ文面がうかがえた。	4	4	◆幼児の昨年の経験、成長の姿を振り返り、保育と行事との関連性を重視し、年間、学期、月の計画を立てていく。 ◆保護者のアンケート結果も高く、事後の意見も良いので、更に、幼稚園教育の良さ、幼児の発達を促す場であることを具体的な事例を通して保護者に伝えていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・3年ぶりの「保幼小交流の日」は、年長児にとって貴重な体験となった。「知る」所から連携は始まるので、小学校を知るための方法を工夫し、なめらかな接続に繋げていきたい。 ・近隣の幼稚園、中学校、高校との交流は実施でき、成果があった。	3	3	◆年長児、その保護者にとって小学校入学は成長を感じる大きな転機なので、連携が図れるように学校との連絡を密にしていく。 ◆人的交流ではなく、情報の交換、児童から園児への手紙、園児から学校への質問など、やり方を工夫した連携を計画的に行う。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・コロナ禍で未就園児教室は中止せざるを得ない状況だったが、作法教室や文化祭、世代間交流など地域との連携は積極的に行い、地域の幼稚園として協力関係を維持しながら取組んだ。 ・職員は保護者と丁寧にに関わり、手紙や情報などタイムリーに発信したりし、幼稚園教育への理解を深めてもらえるように取組んだ。	3	4	◆園児数確保につながるように、積極的に幼稚園行事への参加を促したり、コミセンと連携を図ったりした未就園児教室を実施する。地域の事業に継続して参加し、成果を発信する場を持つ。 ◆今後も、保護者と丁寧にに関わり、一人一人のニーズに合わせた連携を行い、幼稚園教育への理解を深めてもらえるようにする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・県や市主催の研修会に積極的に参加し、自己研鑽を重ねることができた。また、指導員を招いて研修会を行ったり、毎学期に園内研修会を実施し職員同士で保育を振り返ったりすることで、自分の保育や研究について検討、見直し、改善を行うことができた。	4	4	◆今後も「語ろう会」を継続し、職員間で幼児の捉え方、支援の仕方、保育の進め方を話し合い、自分の保育の課題を探る。 ◆保育を提案したり、他の職員の保育を見たりし、深い学びや研究についての見直しや検討を行う。 ◆研究会、研修会等、積極的に参加し、自己研鑽を重ねる。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・今年度は正規の職員配置になり、園務がスムーズに遂行できた。 ・起案をもとに全職員で話し合い、より良い運営ができるように職員間で協力し合いながら、計画的に取り組むことができた。	4	4	◆年度当初に、1年間の園務の進め方、組織の在り方について話し合い、課題を洗い出して効率の良い方法で園務を遂行する ◆サブを付けることで、組織が円滑、計画的に行えるようにする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・今年はコロナ感染症に感染する園児や職員がおり、再度、感染対策の大切さや必要性について考え、対応を行った。 ・定期的な避難訓練の実施、保護者への引渡し訓練など、計画に基づいて訓練を実施し、職員間の危機管理への対応を深めた。が、アンケート結果から保護者の理解を得るための説明は必要だった。	4	4	◆引き続き、全職員でコロナ禍の安全、衛生管理に対する正しい情報収集を行い、幼児・職員の安全な生活を確保する。 ◆避難訓練、安全点検を定期的の実施し、職員間の危機管理意識を高め、どんな場面でも幼児や職員が安全に行動できるような対応力も養っていきたい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・定期的に園舎内外の設備、遊具の点検を行い、不備が生じた時には、速やかに報告、修理改善を行い、幼児の安全な生活の確保に努めた。但し、職員にとって当たり前の業務だがアンケート結果から、幼稚園がいかに安全で安心な環境かということを保護者に理解してもらう必要があると思った。	4	4	◆複数で定期的に安全点検を行い、安全な環境作りを徹底する。 不備が生じた場合、職員が責任をもって対応を速やかに行う。 ◆安全管理、環境整備について、保護者に具体的伝え、幼児の生活環境の安全性や職員の環境整備への取組みについて理解をしてもらう。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する